



日光の歴史ある古文書を次世代につなぐ

会の皆さん(左上から時計回りで吉新さん、北村さん、前野さん、柳原さん、藤井さん、中川(光)講師、中川(仁)講師、柳原代表、矢野さん)

こもんじよ 日光の古文書に親しむ会

活動内容は？
 月に一度、興雲律院住職の中川光熹氏や、筑波大学准教授の山澤学氏、大正大学専任講師の中川仁喜氏(共に市出身)を講師に迎え、定例会(勉強会)を行っています。現在は日光地域の弥生祭にまつわる古文書を研究しています。

メンバーは？
 古文書を愛する20〜80代の23名です。宇都宮市や栃木市在住の方もいます。

発足したきっかけは？
 旧日光市の公民館で古文書の講座が行われ、その講座が終了した後、平成17年に継続する形で会ができました。

皆さんは古文書を見たことがありますか？ 博物館のガラスケースの中にある、古い書物のイメージでしょうか？ 今月は、日光地域の古文書を研究している「日光の古文書に親しむ会」の柳原一興代表にお話を伺いました。

今ではお目にかからない、漢字が並んだ文書を読んで、そこに込められた思いがわかると、その時代の風景や匂いが鮮明に頭に浮かぶこともあります。古文書は、タイムスリップしてその時代に生きた人と対話している面白さを感じることが出来ます。

古文書の魅力は何ですか？
 分からない文字が読めたときの喜びや、古文書特有の書式が理解できるようになると、意欲が湧いてきます。そして、一枚の文章に書かれている内容やその背景に、さまざまな発見があると同時に、奥深い世界が感じられるようになります。

会の目的は？
 残されている貴重な古文書の一つでも多く収集し、次世代へつないでいくことです。

初心者も入会できますか？
 定例会では、全員で古文書を読んでいきます。古文書を見ながら聞くことから始まるので、初心者の方も段々に読めるようになります。また、古文書は文字を形として覚えるため、子どものほうが覚えが早いといわれています。

インタビューを終えて
 市の社会教育委員長でもあり、さまざまな活動を行っている柳原代表は、博識でとても話が面白く、「古文書も方言と同じで地方に行けば行くほど、文字が崩れていくのもおもしろいですよ」と話します。私も古文書の世界を覗いてみたくなりました。歴史や古文に興味がある方は、入会をお勧めします。



和気あいあいの雰囲気で行われる定例会

※入会を希望する方は…柳原代表(☎54-3600)へ。また、皆さんのご家庭に残る古文書がありましたらぜひご連絡ください